筑波大学附属学校研究紀要総目次（令和5年）

研究紀要（第59巻）：筑波大学附属桐が丘特別支援学校

学校研究１　対話的な授業づくりによる深い学びを目指した実践研究－遠隔合同授業をツールとして－
・『他者との学び合い』を創るオンライン授業（遠隔合同授業）－小学部1年生国語科の事例－ …… 2
・「他者との学び合い」を創る遠隔合同授業－中学部3年数学科の実践事例－ …… 8
・他者との「学び合い」を創る遠隔合同授業－小学部4年社会科の実践事例－ …… 13
・他者との『学び合い』を創る遠隔合同授業－高等部2年保健体育科の実践事例－ …… 20
・他者との「学び合い」を創る遠隔合同授業－高等部1年外国語科英語コミュニケーションⅠの事例－ … 25
・他者との「学び合い」を創る遠隔合同授業－小学部4年生図画工作科の実践事例－ …… 31

学校研究２　障害の重い子供の教科指導の在り方に関する実践研究
・知的障害を併せ有する肢体不自由児に対する算数・数学科の指導の在り方に関する実践研究－「算数の世界」に没頭する単元づくり－ …… 38
・知的障害を併せ有する肢体不自由児に対する体育科・保健体育科の指導の在り方に関する実践研究－「意図を感じ取り動きを引き出す」体育の授業づくりを目指して－ …… 44

個人・グループ研究，その他
・重度・重複障害児に対する視線入力装置を活用した教材開発と授業実践－ステップアップに向けた段階表の作成－ …… 56
・高等学校で国語科を学習する通常の学級に活用できる特別支援学校の「個別最適な学び」に着目した実践－インクルーシブ教育の視点に立った「論理国語」での「書く」と「打つ」との言語活動を通して－ …… 64
・中学部理科1段階「電気の通り道」における疑問をもつ力を育てる指導の展開 …… 75

2024年3月
筑波大学附属桐が丘特別支援学校

筑波大学附属大塚特別支援学校研究紀要　第68集

令和４～令和7年度
文部科学省研究開発学校指定
研究報告書
－2年次－
（研究紀要 第68集）
知的障害特別支援学校における
小中学校教科の授業実践
－生活科・理科・社会科に関する教科等横断的な学びを通して－
2024年3月
筑波大学附属大塚特別支援学校

目次

巻頭言
第１章
　学校研究 …… 1
第２章
　学部研究
　　Ⅰ．小学部 …… 13
　　Ⅱ．中学部 …… 47

Ⅲ. 高等部 …… 73
第３章
実践事例の紹介
理科
国語
算数・数学
図画工作・美術
音楽
保健体育
家庭
外国語
第４章
３学期の実践（各学部代表授業の紹介）
小学部・生活科
中学部・社会科
高等部・社会科
巻末言
研究同人

筑波大学附属聴覚特別支援学校紀要　第45巻（通巻50巻）

研究
田中豊大
多様化するニーズへの対応と発信力育成のための英語の授業
～ICTを活用した指導実践および質問紙調査結果の考察～
田中優子
聴覚障害生徒による漢字の読み誤り
内野智仁
モバイルアプリケーション開発を題材とした情報デザイン指導法
報告
林徳子　山縣浅日　杉山砂寿　佐藤文昭　山中健二
乳幼児教育相談（けやきルーム）における保護者支援　～補聴器や人口内耳の装用や聴力測定の場面での配慮～
土手信　池田智帆　杉本真美
聴覚障害幼児のやりとりする力を育てるための取り組み　～幼稚部入学当初の実践～
池田智帆　石﨑美津希　小柳達朗　佐藤文昭　澤田真喜子　柴田空真　須藤広代　杉本真美　杉山砂寿　土手信
林徳子　森敬子　山縣浅日　山中健二
個々の実態に応じた指導実践に関する研究　～授業研究会における話し合いを通して～
川上綾子
生き生きと日本語にかかわる発音・発語指導を目指して　～リズムに乗って発音する楽しさを実感させる取組～
館山千絵　奈良歩　數馬梨恵子　澤頭紀夫　荒川郁朗　廣瀬由美
韓国国立ソウル聾学校とのオンライン交流　～新型コロナウイルス感染症流行期の中断を経て再開して～
久川浩太郎
科学と人間生活におけるエネルギー教育の実践
久川浩太郎　磯野航也
河川教育を取り入れたカリキュラムの検討
長島素子
オンライン授業における音声認識ツールの活用
西分貴徳　館山千絵　小野敦也　青田豊樹　石井清一
GIGAスクール構想下における本校の環境整備及び運用状況についての報告

鈴木牧子
　進路指導と関連づけた自立活動の実践　～「障害の特性と生活環境の調整に関すること」の指導実践例～
田中豊大　澤口真弓　田万幸子　久川浩太郎
　令和４年度　フランス国立パリ聾学校（INJS）とのオンライン交流
大谷津和之　村井保
　筑波大学附属視覚特別支援学校寄宿舎とのオンライン交流を通して
林徳子　杉山砂寿　川上綾子　數馬梨恵子　長島素子　中坂聖　鎌田ルリ子　山中健二
　令和４年度　幼児児童生徒の聴力の実態及び聴覚活用委員会の取組
2023年（令和5年）3月
筑波大学附属聴覚特別支援学校

筑波大学附属視覚特別支援学校研究紀要　第55巻

目次

研究テーマ：主体的・対話的で深い学びのある授業実践の発信
―視覚障害教育の専門性に根ざして―
巻頭言
校長　青木隆 …… 1
1. 障害の重複化，多様化に対応した指導の在り方
　―視覚障害を伴う重複障害教育において大切にすべきことを考える―
　小学部　佐々木望美　塚田直也　亀井笑 …… 3
2. GIGAスクール構想の実現に向けた取組について
　GIGAスクール委員会 …… 13
3. 学習意欲とキャリア意識が高まる学年間の施術交流について
　専攻科鍼灸手技療法科　足達謙　寺崎直　清水弘大 …… 17
4. 本校鍼灸手技療法科における鍼灸専門学校との交流
　専攻科鍼灸手技療法科　黒岩聡　前田智洋　原早苗 …… 23
5. 生徒の主体性を引き出す臨床施設実習の取組
　専攻科鍼灸手技療法科　小又淳　岡愛子　岸本有紀 …… 31
6. 理療実習におけるカンファレンス授業の取り組みについて
　専攻科鍼灸手技療法科　柴田健一　村田愛　緒方梨絵 …… 35
7. 聾学校とのオンライン交流会を通して
　―コロナ禍における新たな行事の形を探る―
　寄宿舎　飯島美帆　加藤真弓 …… 41
8. 研究報告　研究・研修部 …… 47
令和5年7月
筑波大学附属視覚特別支援学校

筑波大学附属久里浜特別支援学校　令和 5 年度　自閉症教育実践研究協議会
実践研究収録【研究テーマ】知的障害を伴う自閉症児が確かに育つ
教育課程の改善（1 年次）

目 次

はじめに
第１部 本校の概要 …… 2
第２部 全校研究
　Ⅰ　今年度の研究について …… 4
　Ⅱ　幼稚部の研究について
　　1　幼稚部の研究概要 …… 8
　　2　幼稚部うさぎ組の実践事例 …… 14

3　幼稚部のまとめ …… 26
Ⅲ　小学部の研究について
1　小学部の研究概要とまとめ …… 28
2　小学部１年の実践事例 …… 32
3　小学部５年の実践事例 …… 40
Ⅳ　今年度の研究のまとめ …… 46
【巻末資料】
＜実践研究協議会 当日の記録＞
1　野呂　文行先生　講演の記録 …… 50
2　野呂　文行先生　指導助言の記録 …… 52
3　谷戸　諒太先生　指導助言の記録 …… 54
4　柘植　美文先生　指導助言の記録 …… 55
5　真部　信吾先生　指導助言の記録 …… 56
＜小学部 単元構想シート＞ …… 58
おわりに
研究同人

筑波大学附属高等学校研究紀要　第64巻

授業「ロシアのウクライナ侵攻と国際人道法」
公民科　熊田　亘 …… 1
授業「オークション（その１）」
公民科　熊田　亘 …… 21
コロナ禍の3年間を振り返って
－高校3 年生のコメントからみえるもの
保健体育科　中塚　義実，鮫島　康太，征矢　範子，松本　英樹，羽石　南，天羽　礼 …… 31
「時制」の習熟を目指したディクトグロスの実践
― ICT を活用した筆記ランゲージングを加えて―
外国語科　髙木　哲也 …… 61
語彙習得研究に基づいた効果的な語彙指導を求めて
外国語科　髙木　哲也 …… 77
発表活動のためのリテリング指導
―「 英語コミュニケーションⅠ」における授業実践例 ―
外国語科　曽根　典夫 …… 89
資料を解釈し，学びを表現する歴史授業のプラットフォームの提案
～ ALをベースとした実証主義と構成主義の架橋の試み～
地歴科　大庭　大輝 …… 109
２変量それぞれの確率分布と相関係数が与えられたときの散布図の作成
― フリーソフトウェアRによるプログラム開発 ―
数学科　川﨑　宣昭 …… 123
高校体育における球技「ベースボール型」の実践
― ソフトボールに関して・ソフトボールを通して，教えておきたいこと ―
保健体育科　松本　英樹 …… 135
普通科高校における「線形計画法」に関する学習指導の可能性　その２
数学科　三輪　直也　公民科　熊田　亘 …… 147
高校英語授業におけるクリエイティブ・ライティングの実践
外国語科　塩飽　りさ …… 153
動作の表現に着目した柔道授業の実践報

保健体育科　鮫島　康太 …… 169

2023年3月

筑波大学附属高等学校

筑波大学附属駒場論集　第62集

目次

序　学校長（北村　豊）…… 1

プロジェクト研究

＊国語にとって問いとは何か―その２―
国語科（東城　徳幸ほか）…… 3

＊新課程の社会科授業をいかにつくるか（4年計画2年次）
社会科（小佐野　浅子ほか）…… 11

＊創造的な探求活動を促す教材の開発および教材開発の枠組みの構築―（３年計画の１年次）
数学科（薄井　裕樹ほか）…… 23

＊探求心を含む理科教材の開発
理科（今和泉　卓也ほか）…… 51

＊コロナ禍における体育祭の開催に関する実践報告
保健体育科（登坂　太樹ほか）…… 63

＊合唱を通した男声発声指導と総合的音楽能力の育成―歌唱指導と総合的音楽能力向上の融合―
技術・家庭・芸術科（町田　健児ほか）…… 67

＊生徒が主体的に発信し，相互理解を深める能力の育成―その５―
英語科（山田　忠弘ほか）…… 75

＊音楽祭の再開にあたって
生徒部（有木　大輔ほか）…… 103

個人研究

＊学校図書館をひらく　加藤　志保 …… 111

＊保健体育科における課題研究の取り組み　横尾　智治ほか …… 119

＊既存の副教材を活用した「金融教育」―2021年度・高校家庭科の授業記録―　植村　徹 …… 127

＊英語COMIにおけるサマリーの実践―単なる穴埋め活動からの脱却―　八宮　孝夫 …… 139

2022年度個人研究報告テーマ一覧 …… 153

筑波大学附属中学校研究紀要　第75号

1.「問いを立てて考える力」を育てる（２）
国語科　五味 貴久子，細田 広人，細川 李花 …… 1

2.「問いを立てて考える力」を育てる（２）　公開授業編
国語科　秋田 哲郎 …… 43

3. 中学校図形領域のカリキュラム開発に向けて（Ⅲ）
数学科　近藤 俊男，小石沢 勝之，石黒 友一，四ノ宮 鴨彦 …… 63

4. 高齢者の食を考える―フレイルって何？中学生と考えるフレイル予防のアプローチ方法―
技術・家庭科（家庭分野）　田中 愛理 …… 81

5. 考え議論する道徳授業の工夫～「真理の探究」の内容項目を通して～
技術・家庭科（技術分野）　多田 義男
…… 97

2023

筑波大学附属中学校

○筑波大学学校教育論集 投稿規程

（改正 令和 6 年 1 月30日
学校教育論集編集委員会決定）

1. 本誌に掲載される論文は，主として附属学校教育局において行われた研究に関連する未公刊の論文とする。
2. 投稿者は，研究全般の手続きにおいて研究倫理について十分に配慮すること。
3. 投稿論文は原著論文，実践報告および総説論文とする。
4. 論文の投稿にあたり，著者のうち1名が附属学校教育局もしくは附属学校の教員であることを要する。ただし，学校教育論集編集委員会が審査の上，特に認めた場合はこの限りではない。
5. 論文は，刷り上がり15頁以内を原則とする。
6. 投稿の際には，論文原稿を3部用意する。論文原稿の構成は以下のとおりとする。
   （1）表紙（論文題（日本語・英語））
   （2）本文（Ａ4横書きで24字×45行 余白を3cm以上，刷り上がり2段組みの1段にあたる。引用文献含む）
   （3）図表（図表は1枚につき1ページを使用し，表はTab.1から図はFig.1から順に通し番号を付ける。本文中の余白に挿入箇所を指定し，重複は極力避けること。）
   （4）和文要約（500字程度，5つ以内のキーワードを付ける）
   （5）英文要約（175語程度，5つ以内のkeywordsを付ける）
   （6）資料，脚注，謝辞（必要な場合のみ）
7. 引用文献については，以下の例を参考にして記載する。
   （1）本文中の引用の仕方
      ア　著者が1の場合
         永浜（2012）は…，Barclay（2000）は，
      イ　著者が2名の場合：日本語は「・」英語は「&」で区切る
         藤嶋・細谷（2016）は…，Vallerand & Bissonnette（1992）は
      ウ　著者が3名以上の場合は，冒頭2名のみ初出から記載し，それ以降の著者は
         日本語では「～ら」，英語では「et al.」と記載する
         小島・下山ら（2016）は…，Kojima, Shimoyama, et al.（2016）は…
   （2）文献リストの記載方法
      文献リストへの記載は，以下の例を参考にして記載する。
      ア　学術論文
         安井友康（2004）．車いすバスケットボールの交流体験が障害のイメージに与える影響 障害者スポーツ科学，2（1），25-30.
         Vallerand, R. J., & Bissonnette, R. (1992). Intrinsic, extrinsic, and amotivational styles as predictors of behavior: A prospective study. *Journal of Personality*, 60, 599-620.

      イ　書籍
         能田伸彦・中島健三（1991）．新・算数指導実例講座 9 数量関係 金子書房
         Deci, E. L., & Ryan, R. M. (1985). *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior*. New York: Plenum Press.
      ウ　書籍の特定の章
         長谷秀揮（2003）. 暴力・虐待 祐宗省三（編著）ウェルビーイングの発達学（pp.91-96）北大路書房
         Barclay, L. (2000). Autonomy and the social self. In C. Mackenzie & N. Stoljar (Eds.), *Relational autonomy: Feminist perspectives on autonomy, agency, and the social self* (pp.52-71). New York: Oxford University Press.
      エ　翻訳書
         Brooker, D. (2007). *Person-centered dementia care: Making services better*. London, UK: Jessica

Kingsley Publishers.
（ブロッカー , D. 水野裕（監修）村田康子・鈴木みずえ・中村裕子・内田達二（訳）（2010）. VIPS ですすめるパーソン・センタード・ケア かもがわ出版）

オ　Web 上の資料

内閣府（2009）. 障害を理由とする差別等に関する意識調査
http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/tyosa/h21ishiki/pdf/kekka.pdf（2017 年6 月13日閲覧）
United Nations (2015). Transforming our world: The 2030 Agenda for Sustainable Development. Retrieved from https://sustainabledevelopment.un.org/post2015
/transformingourworld (June 15, 2017).

8. 投稿論文は常用漢字，現代かなづかいを用い，簡潔．明瞭に記述する。カタカナは原則として日本語となっている外国語（例：インクルーシブ）を記述するときのみに用い，全角カタカナで記載すること。
9. 英文は十分に熟達した人によるか，その校閲を経ていること。本文中の外国語の使用においては，外国語文献の著者や人名，日本語の定訳のない語句，書籍やテスト名のみに用いること。
10. 数字は原則として半角の算用数字を用いること。
11. 投稿に際しては，以上の論文3部に併せて，論文の内容を記録したメディア（CD-R，USBメモリ等）と連絡票（論文題（日本語），全著者名と所属，代表者の連絡先を記載）を提出すること。
12. 本規程に記載のない事項については，投稿者の専門分野における標準的な記載方法に準じて記載すること。

附　則

この規程は，令和6年1月30日から施行し，改正後の第4項の規定は，令和5年12月15日から適用する。